

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500329
法人名	有限会社 萩の台
事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
所在地	愛媛県新居浜市政枝町2丁目3番32号
自己評価作成日	平成27年8月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居室に閉じこもってしまわないように、居室を出ると直ぐにフロアになっており、広い空間で他の入居者の方々と会話が弾み一緒に過ごす時間が持てるようになっています。これまでにご使用されていた日常生活用品などを持って来られて出来るだけ、在宅での生活環境に近い状態で過ごせるよう配慮しています。建物の南側には農園と花壇があり、スタッフと共に野菜や花作りに取り組んでいます。収穫物を調理に使い出来る範囲で調理にも参加できるよう取り組んでいる。近所にある子育て支援の子供たちとの交流会も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の運動会時には、利用者用にテントを準備してくれており、車でそばまで行くことができる。文化祭では、利用者が出展した作品を見やすいよう、1階に展示会場を設けてくださった。事業所での芋炊き会に地域の方を誘ったり、毎月、法人の子育て支援事業「キッズ政枝」の親子との交流を行っている。一緒に防空頭巾作りした際には、針の糸通しに困っている利用者の様子を見て、若いお母さんが手助けしてくれるような場面も見られたようだ。家族会を年1回、2月末の日曜日に開催しており、ほぼ全員のご家族の参加がある。ご家族の中に、「最後まで事業所で過ごす事ができるのか？」と不安を話す方があったため、今年度は、事業所で「看取りの指針」を作成して説明し、ご家族の意向を確認した。ご家族からは、「安心した」という声が聞かれたようだ。又、「職員の異動等についても知りたい」と言う意見については、事業所内に掲示して知らせるようにしていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・カミングケアステーション

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 藤田 千登世

評価完了日 27 年 8 月 20 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所内の意識付けのため掲示し、研修時などに定期的 に振り返りを行うように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所理念を「家庭により近い環境の中で自分らしさを大切 にたくさんの笑顔と自信をもって生活できる場を提供しま す。」と作り、居間に掲示している。今年度は目標を「挑戦」と 決め、職員で具体的に内容を話し合い取り組んでいる。年 度末には、成果を確かめ、次年度に向けて話し合っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事(運動会・春・夏祭り・文化祭等)や自治会の行事(総 会・廃品回収・講習会・避難訓練等)できる限り参加をしている。ま た、自菜園でできた野菜等ご近所にお裾分けさせていただいてい る。三味線等のボランティアの方々やデイサービス利用者の方や サービス付き高齢者向け住宅の入居者の方や子育て支援へ来て いる親子との交流会などを行っている。	
			(外部評価) 地域の方が誘ってくださり、盆踊りや運動会、文化祭に参加してい る。日頃の交流から地域に顔見知りも増えており、利用者の状態も 理解してくれている。運動会時には、利用者用にテントを準備して くれており、車でそばまで行くことができる。文化祭では、利用者が 出展した作品を見やすいよう、1階に展示会場を設けてくださった。 事業所での芋炊き会に地域の方を誘ったり、毎月、法人の子育て 支援事業「キッズ政枝」の親子との交流を行っている。一緒に防空 頭巾作りした際には、針の糸通しに困っている利用者の様子を見 て、若いお母さんが手助けしてくれるような場面も見られたようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 見学希望者は随時受け入れを行い、地域の方々にもどの ような施設か、芋炊き会や夏祭りなどで開放し見学をして理 解してもらえるように努めている。地域との避難訓練や地域 の救命救急の講習にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 奇数月の第3水曜日に開催している。活動報告や避難訓練や緊急時の対応等について情報交換などを行っている。利用者さん手作りのおやつをお出しし、普段食べている食事など写真で見て頂いている。また、家族の意向や意見なども発表している。意見を頂いた事項については管理者会で検討し、スタッフへ申し送っている。入居者の方、役員等出席している。</p> <p>(外部評価) 会議には地域の自治会長、公民館長、市職員、利用者、職員が参加して、隣接施設で開催している。会議では、利用者の日常の様子や行事について参加者に解かりやすいよう、A4サイズの写真を準備して報告している。法人の子育て支援事業との交流は、利用者やご家族から好評で、会議メンバーからも「利用者の表情が柔かくなった」等と感想がある。又、「実際に交流している様子が見たい」等の希望もあり、今後、見学等ができるよう予定をしている。会議時に、利用者が点てた抹茶や手作りおやつでもてなすこともある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当者が推進会議に参加があり、情報交換を行うように努めている。制度についての不明な点など、その都度確認させて頂いている。市へも相談に出向いている。市の介護相談員も受け入れ、偶数月の第2水曜日に行っている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、1名ずつ利用者から話を聞いて報告がある。運営推進会議時、市の職員からは、介護保険の制度や市の現状報告がある。事業所団体が行う研修への参加率がよく、表彰を受けた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束は行っていないが、言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止を研修や勉強会などで行っている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関の自動ドアは開放されていた。夕方に「帰りたい」気持ちが強くなる方には、ご本人の気がまぎれるよう職員が交代しながら対応等している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	虐待防止法について、職員研修を実施して、定期的に学ぶ機会を設けている。スタッフ会に外部から講師を招き講演を行ってもらった。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	現在制度を利用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、制度活用が出来るように学んでおきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	契約時に重要事項を十分に説明するように努めている。家族等の不安や疑問点にはその都度、説明を行い理解、納得していただけるように配慮している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	家族の面会時などには意見や要望等を個別に確認するように努めている。家族会を開催し意見交換を行い、おやつをご入居者と共に食べて頂いた。運営推進会への参加も呼びかけたが、仕事などで都合がつきにくいとのことだった。	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			スタッフ会や朝の引き継ぎ時等、その中で提案された意見や要望を反映できるようにしている。	
			(外部評価)	
			月1回のスタッフ会時には、職員同士、意見や提案を出して話し合っている。外部研修については、興味や関心のある研修を受講できるよう、職員全員に案内を回覧しており、積極的に参加している。研修後は、スタッフ会や運営推進会議時に内容を報告している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			毎日事業所へ出勤し、一人ひとりとの関わりを大切にしている。働きやすい職場作りに努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。認知症の研修への参加を勧めている。研修で学んだことをスタッフ会等で職員に伝える機会を設けている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			地域密着型部会に参加し、他事業所との交流や勉強の機会をいただいている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			その方の居室にて、個別に相談する機会を多く持ち、本人の困っていること、不安なことや要望等の確認を行って、信頼関係を築き、ご本人をよく理解できるように努め、入居による環境変化からくるストレスを軽減できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	入居前の訪問時に家族等に困っていること、不安なことや要望などを聞き確認している。また、事前に見学に来ていただき、上記のような確認を行い共に支援を行っていきけるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	本人やご家族と話し合い、状態や状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極め、ニーズに応じて他のサービス利用も検討している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	生活の中で入居者が出来る事はなるべく自分で行っていただき残存能力維持ができるよう努め支援している。例えば調理の下ごしらえや、食器の片付け、シーツ交換、洗濯干しや野菜の収穫等、出来る方はスタッフと共にやる機会を多く設けている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	家族には生活状況の事や現状の様子や健康状態などを面会時や電話などでお伝えするようにしている。月に1度様子を報告する文章をお渡ししている。また、個別ファイルに写真を保存し家族間で会話が弾むように配慮させていただいている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	馴染みの場との関係が切れてしまっている状態の方が多いが、地域の行事や祭りへの参加など生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。また、お抹茶をたてたり、菜園作りなど自宅でされていたことを行える機会を設けている。家族会などで馴染みの方の面会においてもらえるよう声かけを行っている。	
			(外部評価)		利用者の自宅近所の方や仲人をしたご夫婦等、定期的に訪れる方もあり、職員は来訪者に「ご本人がとても喜ばれていました。ぜひまた来てくださいね」と声を掛けて、利用者の思いを伝えている。年賀状や暑中見舞いを利用者からご家族に出せるような支援を継続している。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士が生活の中で共に作業が出来たり、共通の時間ももてるよう働きかけている。また、利用者間がトラブルにならないよう職員が間に入りながら対応している。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	利用者が入院した場合は定期的にお見舞いに行っている。サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。
			(外部評価)	
			入居時に利用者についての情報を聞き取り、アセスメントシートにまとめている。職員が日々の生活の中で知った利用者の思いや好み等は、職員同士が口頭で伝達している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	利用者や家族との日々の雑談や会話の中から今までの生活状況・環境を聞きとるように努めている。回想療法時等・生活歴など聞き取れる機会を設けている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	一人ひとりの現状を共有できるよう常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応が出来るよう心掛けている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ会や日々の朝礼、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。家族との話の中でも家族の要望を聞き入れるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族には事前にケア等についての意向を聞いておき、職員で話し合い介護計画を作成している。利用者の状態等によっては、ご家族も一緒に話し合うこともある。モニタリングは、毎月利用者個々の担当者が実施状況をまとめて行っており、定期的、又、随時の見直しにつなげている。ご自宅裏の、ご自分で植えた桜を見に行くことを毎年楽しみにしている方には、2ヶ月前から介護計画に、下肢筋力を鍛えるような計画を盛り込み、ご本人が楽しく出掛けられるよう取り組んでいる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子を記録するだけに終わらず、一人ひとりの状態を把握し気づいたことを即、話し合うことで情報を共有し、介護計画の見直しをしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>多機能にわたって支援していくためには、事業所内だけでなく、協力者や入居者家族との意見交換を多くしながら取り組んでいきたいと思う。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりが活用可能な地域資源を把握し、本人主体に活用できるよう支援していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医から適切な医療が受けられるように情報提供を行い支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項・介護上の注意など助言を求めている。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医の受診を継続している方もあるが、入居を機に往診可能な協力医に変更するケースもある。受診はご家族が対応されるが、困難な場合や緊急時は職員が対応している。利用者によっては、ストーマケアが必要な方や夜間のみ人口呼吸器を使用する方もあり、職員は、専門医や看護師に取扱いやケア方法を習い、支援できるよう取り組んでいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員は日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見・早期対応を心がけている。異常の際は看護職員と情報を共有し、家族や協力医に報告・相談のもと対応している。	
			(外部評価) 利用者の入院時には、情報提供を行っている。退院時には、情報提供をしていただき受け入れに対応している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の入院時には、情報提供を行っている。退院時には、情報提供をしていただき受け入れに対応している。	
			(外部評価) 重度化されている入居者には、対応についても細かく話し合い、異変時には早急に受診体制をとるように努めている。終末期ケアについては、GHでは事例がないが、関係事業所での経験を学んだり、協力医、家族と密に連絡を行い、連携が取れるようにしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化されている入居者には、対応についても細かく話し合い、異変時には早急に受診体制をとるように努めている。終末期ケアについては、GHでは事例がないが、関係事業所での経験を学んだり、協力医、家族と密に連絡を行い、連携が取れるようにしている。	利用者やご家族の希望に沿った支援が実践できるよう、早い段階から話し合う機会を作る等して、関係者で思いを共有できるように取り組みをすすめてほしい。
			(外部評価) これまで事業所では看取り支援の経験はないが、今年、事業所で看取りの指針を作成し、家族会時に説明した。看取りの指針の中に「利用者やご家族の思いが食い違う場合には、利用者の思いを最優先します」と記しており、利用者の希望を最優先にした支援が実践できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			応急手当や初期対応の実践力についてはスタッフ会等において行っている。今以上の対応能力を身につけていくために、定期的に勉強会や講習会などに参加している。看護師を中心に実践力を身につけたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			避難訓練は毎月1回実施しており、日常により近い状況で行っている。年2回は消防署合同で訓練を行い、地域の方と合同の訓練も行う機会も設けている。	
			(外部評価)	
			年2回、消防署の立ち合いのもと、地域の方や「キッズ政枝」と合同で避難訓練を行っている。職員や利用者で水消火器を使用して消火訓練を体験した。さらに、消火器本体を使い、消火剤がピンク色をしていることを知ることができた。地域の避難訓練にも参加し、利用者は、避難可能な距離まで歩いて避難した。事業所独自では、毎月、夜間、日中の火災を想定し、又、出火場所を替えて避難訓練を行っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			排泄時・入浴時などは個別で行いプライバシーを守り、損ねないような言葉かけを行うように意識しているが、今後も尊重していくよう心掛けていく。	
			(外部評価)	
			職員は、介護される側の立場に立って接することや、利用者の声に耳を傾けることを心がけている。排泄の失敗がみられても、「大丈夫ですよ」と声を掛け、利用者が気を使わなくても済むよう対応している。新人職員は、銀行が主催する「接遇研修」に参加して、利用者への態度や言葉遣い等を勉強している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			入居者自身の言葉や思いを伝えられるように信頼関係を築いていけるよう努めている。また自己決定しやすい様に、具体的な選択肢を伝えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて生活できるよう努めているが、個々の心身の健康状態などを考慮しながら、職員の都合に合わせての生活を過ごさないように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望で散髪の段取りを行ったり、髭剃りやお化粧が出来る機会を作ったりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る事を中心に、共に調理を行ったり、自菜園で作った野菜や戴きものの野菜を活用している。メニューも入居者に聞きながら決めたり、行事食を大切にしたりしている。お誕生日には自分で食べたいメニューを考えてもらったり、希望のおやつを提供させていただいている。	
			(外部評価) 調査訪問時、昼食用の餃子を作っており、手の不自由な方には餃子包み器具を用意して、できることを一緒に行えるよう支援していた。正月には、重箱、運動会には弁当箱に詰めたり、季節や行事に合せた食器選びをして、食事をさらに楽しめるよう工夫している。又、5月は、鯉のぼりに似せたオムライス、3月はお雛様に似せたお寿司等、見た目も楽しめるよう工夫している。利用者の誕生日には、ご本人のリクエストに合わせたメニューでお祝いしている。職員も利用者と同じテーブルで同じ食事を食べ、味付けや調理のエピソードを話題にながらサポートしていた。食後は、職員が3ヶ所に下膳用のお盆を用意して、利用者個々に器を重ねて片づけていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量・水分量を確認しながら毎食記録を行っている。栄養のバランスを考えながら献立を考えている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、言葉かけ・確認・記録を行い口腔ケアを行っている。年に1回訪問歯科協会による歯科検診を受けている。関係事業所の歯科衛生士が口腔内検診も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 車椅子使用の方も日中は出来る限りトイレで排泄が行えるよう支援している。排泄記録などを参考にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとに、その日の利用者の様子を見ながら声かけする等して、トイレで排泄できるよう支援している。目が見えにくい(弱視)利用者には、ご自宅でポータブルトイレを使用していた事から、ご本人やご家族と相談してご自宅と同じように配置して、ご自分の力を使って使用できるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1日に1回ヨーグルトを食事につけたり、野菜や果物を取り入れた手作りのジュースをお出ししたり、水分摂取量にも注意している。腹部マッサージやホットパック・腹式呼吸などの体操なども取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿うように対応し、入浴剤や柑橘類の湯など楽しんでもらっている。体調に合わせて、シャワー浴や清拭も行っている。入浴されない日は、足浴なども行っている。	
			(外部評価) 1階は(火・木・土)2階は(月・水・金)と曜日を決めて、利用者みなが週3回入浴できるよう支援している。利用者からは、入浴について希望はないようだが、職員は、利用者の素振り等を見ながら同性介助で支援したり、入浴の順番等を見極めている。ミカンやゆずの皮を乾燥させて作った入浴剤を使用したり、夏場にはクール入浴剤を使用している。浴槽は左右に移動できるようになっており、必要時には、リフトを使用することもできる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間・起床時間は決めておらず個々の希望に合わせて対応している。日中も休息したい方は自由に休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	薬の情報はファイルに綴り職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時には副作用などの申し送り、状態観察を行っている。
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	個々に合わせた楽しみや役割が持てるように努めている。
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	個々の希望に合わせた外出は予定を立て、職員の勤務状況により対応出来る限り対応している。全体の外出も行事などへの参加を地域の方たち等のボランティアの協力を得ながら対応している。
			(外部評価)	
			事業所から近くのスーパーまで遊歩道が通っており、利用者は職員と一緒に菓子を買に行ったり散歩したりしている。又、季節ごとに桜、紫陽花、芍薬、菖蒲等を楽しめるよう出かけており、利用者はとても喜ばれるようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	個人で所有している方も数名おられ、飲み物やおやつ等を購入されている。ほとんどの方が家族の希望で所持しておらず、家族が管理をしている。
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	電話については本人の希望時には使用できるように配慮している。家族に年賀状やボランティアの方への御礼状など書いている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅で使用していたものや馴染みの物を使用できるように配慮している。共有スペースは季節の花や制作を共に作り貼ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>建物南側に畑があり、オクラ、スイカ、さつまいも等を育てており、利用者と一緒に手入れや収穫をしている。1階には、畑を見渡せるテラスもあり、時にはシャボン玉等して遊ぶこともある。天窗には、日射しを和らげるようカーテンを付けている。居間は広い造りで、南に面した窓からは電車が通る様子がみられる。調査訪問時の昼食後、利用者は、マッサージチェア - を利用したり、テレビを見て過ごしていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの空間に椅子や畳を配置し、くつろげ自由に雑談を楽しめるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅で使っていたものや馴染みの物を使用できるように配慮している。安心できる空間づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、エアコン、壁掛け扇風機、ベット、カーテン、空気清浄機が備え付けてある。その他は、ご自宅から使い慣れた物を持ち込んでもらえるよう伝えており、利用者の状態やご自宅での様子をお聞きして配置している。壁には行事やご家族の写真等を貼っている。又、お花の好きな利用者は、造花をたくさん飾っていた。ご家族には、「実際にベットに横になってみて、使い心地や利用者が見ている風景を一緒に感じてほしい」と話している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>アセスメントに基づき利用者の力を引き出して安全な生活が送れるようにしていきたい。</p>	